

一年学年だより

No. 2【5月号】

令和6年5月2日発行

苦手を克服すると新しい世界が広がる

皆さん、入学して1か月が経とうとしていますね。高校の授業にも慣れてきましたか？ 私は数学の教員ですが、数学という教科は好き嫌いが分かれる教科かなと感じます。「数学は苦手です。」や「嫌いな教科は数学です。」そういう人も多いのではないのでしょうか？

私は、小学生の頃趣味が読書でした。特にファンタジー系が大好きで、テストの点数が良かったときなどのご褒美では、いつも新しい本を買ってもらっていました。小学校高学年では古文にはまり、最初は漫画で読む古典から入って、図書館の本を読みあさり、原文の「平家物語」や「枕草子」の冒頭を暗記したり、百人一首の句を暗記したりするほど、国語が大好きでした。いつも学校の成績は国語が良かった。それに引き換え、算数は大の苦手でした。低学年の頃は九九が覚えられずに、四苦八苦ししました。親に教えてもらっても、分からなくなるといつも「九九をやると頭が痛くなるんよね。」と言いつつ逃げていた記憶があります（笑）。高学年になってから私を苦しめたのが、「百分率」「立体」……もはや意味不明でした。そして、5年生の時の算数のテストでなんと0点を取ってしまいました。そのまま中学生となり、負の数が出てきたときにはもう終わったなと思ったくらいです。それでも、自分は文系だし、数学ができなくてもいいやと思っていました。



しかし、中学2年に進級したのをきっかけに、ふとやってみようかなと思い、自宅で個人塾をしていた母親に教わって、予習をして数学の授業に臨みました。すると、「わかる」んです。感動しました。「わかる」と「面白い」と感じて、「またやろう」という気持ちになりました。私はそこから数学が大好きになり、中学数学の教師になりたいと思うようになりました。高校に入ってから数学はまた一段と面白かったです。数学は学校でもかなりできていましたが、それでも飽き足らず、ハイレベルな内容を教えてくれる塾にも通いました。高3の時の数学Ⅲの定期考査はすべて100点でした。センター試験では9割以上の点を取り、得意なはずだった国語は大失敗をして5割強しか取れずに惨敗しました。そんな私が選んだ大学は、2次試験が数学1本で受験できる愛媛大学理学部数学科、そして現在の職業は高校の数学教師。私の人生は苦手を克服したあの瞬間に大きく変わりました。

長所を伸ばすのも大切ですが、苦手を克服する快感も経験してみしてほしい。きっと、新しい世界、新しい自分を見ることができるはずです。Challenge 精神を大切に！

(101 HR 担任)

大空へはばたけ中央生凧

新入生の皆さんが4月はじめに入学しておよそひと月が経とうとしています。先日まで第1学年教室前の廊下には、創立記念凧揚げ大会に向けて制作された色とりどりの凧が並べられて、廊下を歩くと、それらの凧が綺麗に空に舞うことを願うのと同時に、個性豊かな生徒の皆さん一人一人の進路実現に向けて、微力ながらもサポートできればと考えていました。

私は、クラス凧制作の現場に立ち会い、それぞれの班の制作への取り組み方は様々であるように感じました。一つ一つの工程に、みんなで協力して真剣に取り組んだ班の作品は、骨組みのバランス・丈夫さ、デザイン面など多方面で優れたものであったように思います。他グループ、他クラス、他学年など、周りには様々な人がいる学校環境の中、迷い目標を見失うこともあるかもしれませんが、皆さんが将来の目標を決め、一日一日を無駄にせず日々真剣に取り組む、それが自己実現につながることを祈念しております。

(101 HR 副担任)